



明化の教育

1月号 (第518号)
令和6年1月9日
文京区立明化小学校
校長 熊倉 勝

2024年明化小の漢字は「憧」

校長 熊倉 勝



12月の「たてわり俳句吟行」は、小石川植物園で実施し、俳句を作るだけでなく、自然に大いに親しみました。

令和6年がスタートしました。旧年中は、本校の教育活動に多大なるご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。皆さまにとって本年が幸多き年となることを心から祈ります。本年も、明化小学校をどうぞよろしく願いいたします。

さて、2023年今年の漢字は「税」だったということは、ご存じかと思います。2014年以来2度目の第1位で、その2014年は消費税が引き上げられた年でもありました。昨年「税」が選ばれた理由は、生活に直結する増「税」・減「税」の動向が注目された一年であり、国民の不安や期待が錯綜したからということでした。

そこで、明化小学校今年の漢字を考え、終業式で子供たちに発表しました。2023年明化小の漢字は「新」としました。今年度の夏に新体育館棟が完成し、新しい体育館、プール広場、新しい給食室を使うことができるようになったからです。また、新型コロナウイルス感染症が5類になり、行事などコロナ前に戻しましたが、元に戻すだけでなく、新しい行事も可能な限り行いました。例えば、新体育館にて全校で狂言を観ました。明化スポーツフェスティバルでは、新体育館を使ってキンボールを行いました。また、5、6年生は、新日本フィルハーモニー交響楽団の演奏を聴きに行きました。このような新しい出会いにより子供たちの感性が豊かになり、貴重な体験となったに違いありません。

新年にあたり2024年明化小の漢字も考えてみました。それは、「憧」(ショウ・あこがれ)です。本校には、伝統として「憧れの存在」があります。その「憧れの存在」を大切にしたいと考えたからです。本校の「憧れの存在」の一つが器楽部です。4年生から入部できるのですが、「4年生になったら器楽部 に入りたい。」と思っている子供たちは多くいると感じます。また、6年生が行っている全校朝会で「静心の鐘」を鳴らして、教育目標を唱える活動も同様です。さらに、6年生が委員会・クラブ活動やたてわり班活動などで最高学年としての自覚をもった行動を随所に見せています。12月に行った「たてわり俳句吟行」でも6年生の責任ある優しい姿が見られ、大活躍でした。このような「憧れの存在」は、子供の心を動かします。憧れる側は、「憧れの存在」を目指して頑張ろうとします。また、憧れられる側もよりよい姿を見せようと頑張り、自然と高め合うことができます。まさしく「子供が子供を育む」姿で、主体性と意欲を引き出します。今年もこのような姿を通して、やり通すところとからだを育てていきたいと思えます。

本年も教職員一同、保護者・地域の皆様と手を携えて、全力で子供たちの教育にあたって参ります。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。